



ネーピア市姉妹都市締結30周年市民訪問団交流事業

Report

訪問日時：平成22年11月11日～14日(4日間) 参加者：市民46人

姉妹都市交流事業として市民訪問団を結成してネーピア市を訪問しました。ネーピア市との姉妹都市締結30周年という交流の歴史を感じるとともに、今後の新たな可能性が感じられる訪問になりました。ここでは4日間の訪問内容を紹介します。

Event 1 市民交流パーティ

両市の市民同士が交流しました。ネーピア市の温かいおもてなしにより、仲良く交流しました。



Event 3 市内視察

アールデコの街並みや先住民マオリ族の集会所の見学、両市交流のきっかけであるパルプ製造会社(パンパックス社)を訪問しました。



Event 2 30周年歓迎式典

ネーピア市議場で両市のこれまでの交流の成果やこれからの展望を確認し、確認書の締結や記念品の交換をしました。

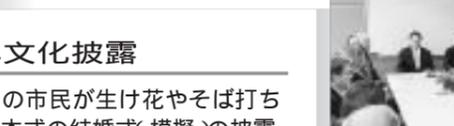


確認書締結の様子(ネーピア市長と岩倉市長) 苫小牧市からの記念品贈呈の様子

ネーピア市からの記念品は市をPRする道路案内板(リトグラフ4枚:写真は4枚のうち2枚) ▶

Event 4 ビジネス懇談会

経済・商業関係者の交流では、苫小牧の商品の紹介やネーピア市の特産品の説明を受けました。また、ワイナリーなどの見学もしました。



ビジネス懇談会の様子 ワイナリー見学の様子

Event 5 日本文化披露

市民訪問団の市民が生け花やそば打ちの実演、日本式の結婚式(模擬)の披露、かっぽれ踊りなどを行い、日本文化の素晴らしさを伝えました。



生け花披露の様子 そば打ち披露の様子



結婚式披露の様子 かっぽれ踊り披露の様子

Event 6 さよなら晩餐会

ポカレカレアナ(マオリ族の歌)を両市参加者で合唱しました。最後の夜ということもあり、非常に和やかな雰囲気の中で友好を確かめました。



ネーピア市側の合唱の発表 ネーピア市長(左2人目)が着物を着る場面

参加者の声！

いちまち 市町 峰行 さん



今回の姉妹都市交流事業には、親睦だけでなく、経済的な交流を目的に参加しました。工場視察では食の安全に対する意識の高さや誠実な仕事ぶりを見て、パートナーとして経済交流を検討したいと思いました。これからは、民間企業同士の経済交流を盛んにするとともに、国際的な人材を育成する必要性を感じました。市民レベルでの交流が盛んになると、地域の活性化も期待できますね。

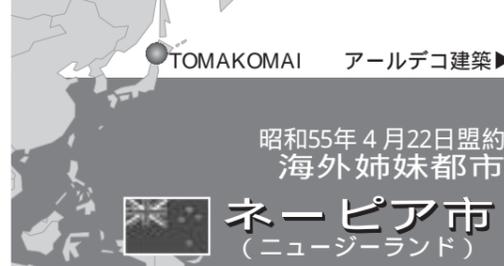
参加者の声！

いしわたり かずえ 石渡 和枝 さん



普通の海外旅行では体験できない現地市民とのふれあいが貴重な体験でした。日本式の結婚式(模擬)披露のプロデュースをしました。ネーピア市民に喜んでもらえ、日本文化の素晴らしさを改めて確認しました。ネーピアの皆さんはとても優しく、楽しく交流できたので、誰でも国際交流ができると思いました。人と人との国際交流がもっと盛んになるように、みんなが参加するといいですね。

海外姉妹都市・友好都市交流事業は、言語、文化、風習などが異なる外国とのふれあいや情報・知識の交換を通じて、お互いを理解して協力することを目的として行われている事業です。今後もネーピア市、秦皇島市との交流をさらに発展させ、両市との友好関係をさらに強いものとするとともに、「国際都市苫小牧」を目指して活動を続けていきます。



昭和55年4月22日盟約 海外姉妹都市

ネーピア市 (ニュージーランド)



苫小牧市の海外姉妹都市・友好都市をご存じですか？

～海外姉妹都市・友好都市交流事業～

詳細 市民自治推進課 ☎32-6156

苫小牧市ではニュージーランドネーピア市と海外姉妹都市、中国秦皇島市と海外友好都市の締結をして国際交流を行っています。今回の特集では海外の姉妹・友好都市であるネーピア市、秦皇島市との盟約に至る経緯と交流、平成22年度の状況についてお知らせします！

● 姉妹都市締結の経緯

紙の原料であるパルプを輸入するため、昭和48年にネーピア港と苫小牧港の間に定期船が運航したことをきっかけに交流が始まり、昭和53年に姉妹港の調印を行いました。港での交流が盛んになり、その後、港以外でも青年会議所などの交流が深まったことにより、姉妹都市締結の声が高まり、昭和55年に姉妹都市になりました。

● ネーピア市の概要

ネーピア市はニュージーランド北島の東海岸沿いにあり、首都ウェリントンから300kmほどに位置し、人口は約57,000人で、先住民のマオリ族が約16%を占めています。気候は地中海性気候で最高気温が25℃、夏が長く、冬は短くとも過ごしやすいためです。また、木材、羊毛、食料品などの積み出し港としても有名です。ネーピア市の街並みはアールデコ様式の建築物であふれ、独特の美しさがあります。



ネーピア市の街並み



ネーピア港

● ネーピア市との交流の状況

ネーピア市との交流は5年毎の訪問団の相互交流を基本とし、文化交流やスポーツ交流など市民同士の草の根交流が続いています。平成22年11月には姉妹都市締結30周年を迎えたことを記念して市民訪問団を結成し、46人の市民がネーピア市を訪問しました。

● 友好都市締結の経緯

秦皇島市とのつながりは、エネルギー港湾の側面を持つ両市の港が、昭和60年に友好港になったことに始まります。両港間で相互訪問や研修の受け入れを繰り返す中、日中友好促進を図る市民団体などから、友好都市締結の声が高まり、市制施行50周年となる平成10年に友好都市になりました。

● 秦皇島市の概要

秦皇島市は北京の北東280km、河北省の北東、渤海と燕山山地の間に位置し、人口約280万人の港湾都市です。市内を貫く「万里の長城」は有名で、市の東には、万里の長城の東端である「山海関」や「老龍頭」があります。西には中国の避暑地である「北戴河ビーチ」があり、年間600万人が訪れる観光地にもなっています。秦皇島港は近郊の油田、炭田から輸送されたエネルギー資源を輸出する中国最大の港となっています。



秦皇島市の街並み



秦皇島港

● 秦皇島市との交流の状況

現在は港の交流のほか、中学生の秦皇島市訪問、秦皇島市からの留学生の受け入れなどの交流が続いています。平成20年には友好都市締結10周年を記念し、104人の市民訪問団が秦皇島市を訪問しました。また、平成22年8月には、中学生15人が秦皇島市を訪問しました。



Report

秦皇島市子ども国際交流事業(中学生派遣事業)

訪問日時：平成22年7月31日～8月4日(5日間) 参加者：市内中学生15人

子ども国際交流事業として中国秦皇島市を苫小牧市内の中学生が訪問しました。学校交流とホームビジット(家庭訪問)や、秦皇島市の理解を深めるための市内見学、北京市内での見学などを行い、中国や友好都市である秦皇島市を知るとともに、人と人との交流を行いました。

学校訪問(文化交流)合唱の発表



秦皇島市山海関(天下第一関)の見学の様子



北京市(天安門広場)の見学の様子

